

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>超高速ブロードバンド基盤は、NTTをはじめ KDDI や CATV 事業者等により、既に90%の世帯に構築されている。その大宗は、NTT が自らの経営努力により成し得たものであることは言をまたない。</p> <p>さて、未整備の10%のエリアは、山間僻地や離島といった場所が想定され、これをカバーするには多大な投資が余儀なく、短期間(2015年目途)での構築には、各事業者とも資金的に、体力的に無理な状況にあると考える。まして、儲けを優先する事業者には望むべくもない。</p> <p>これらの地域には行政による助成や、自治体が設置した光ファイバを IRU する形態により、徐々に着実に構築していくのが望ましいと考える。</p> <p>なぜなら、使用率が30%という状況に加え、早期に膨大な設備を構築しても、これをいつでも使えるように保守していく必要があり、これら体制をも考慮しなければならないからである。</p> <p>このように全国津々浦々に整備された超高速ブロードバンド設備を一元的に管理していけるのは NTT 以外にはないと考える。NTT 東西を構造的に分離するとか、アクセス会社を別に構築するなどの発想はもってのほかであり、グローバルな競争下で日本の地位向上であるとか、グローバルスタンダード構築を先導しようとしている日本の通信事業の進展に水を差す発想に他ならないばかりか、今日的には前述のような事柄にエネルギーを裂く余裕が無いと考える。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>現在、ADSL からフレッツ光に変更して電話とインターネットを利用しているが、超高速ブロードバンドの利点が享受できている実感が無い。一方利用率 30%と言われているが、光ならではの魅力的なサービスが見当たらない、さしずめ映像配信サービスを受けたいと思っているが、料金の低廉化が望まれる。(NTT ぷららのビデオオンデマンドのサービスを受けていたが料金が高かったので止めた。)</p> <p>まず、利用率を向上するには行政が主導して ICT の利用環境を拡充して、市民生活の利便を図ることや医療機関、教育機関との間で最先端の ICT を活用したサービスが受けられるようになることが先決であると考えます。</p> <p>また、NTT のサービスは、ワンストップではなく、電話、インターネットプロバイダ、携帯サービスなどがそれぞれ別会社という制約があり多様なサービスの提供ができない状況にある。</p>

	<p>何はともあれ、NTT に対する一方的な規制を緩和し、イコールフットイングでのサービス競争に期待したい。</p> <p>回線使用料を安くするには、30%の使用率を上げることに他ならないわけで、設備を持つ持たないに関わらず通信事業者は真のキラコンテンツ、キラサービスの創造に注力すべきであると考えている。</p> <p>NTT の組織形態については、1項で述べたとおりであるが、重ねて申し上げれば、NTT を従前のように一社体制にして、世界に冠たるフラッグキャリアとしての地位を確立し、通信業界において常に先導的役割を果たされるよう期待する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---